

平成17年定例第3回金沢市議会

平成17年9月15日

○6番（栗森 慨君）かなざわ議員会の一員として、以下数点お尋ねいたします。

質問の第1に、金沢市所有の文化施設についてであります。

まず、具体的課題の第1に、21世紀美術館の運営に関してお伺いいたします。

昨年10月9日にオープンした21世紀美術館の入館者数は、開館前の予測をはるかに上回り、2月中旬で50万人を超え、6月12日には100万人を突破し、1年間で150万人を超えるのではないかと予測されており、美術館冬の時代と言われる中、大健闘とも言えるのではないのでしょうか。

そこでまず、開館1周年を間近に迎え、入館者数に対しての現在の率直な感想をお聞かせいただくとともに、予測を大幅に上回る入館者数を記録した要因が何であったとお考えなのかお伺いいたします。

このよき流れを変えることなく、市民のため、あるいは金沢の新たな名所としてもさらなる繁栄を期待している一人として幾つかお伺いいたします。

1つ目は、入館者の確保についてであります。1年目の大盛況はだれの目を疑うこともありません。しかしながら、日本では美術館や博物館の黒字経営が難しいことに加え、21世紀美術館でも単年度の管理運営費が約7億4,000万円必要になると聞いております。そこで、2年目のブランクを迎えないために、2年目の入館者数をどこに置いておられるのかお伺いするとともに、小中学生に大好評であったミュージアムクルーズを2年目以降も実施されるお考えなのかお答えください。

一方、有料入館者数に限ってみると、総入館者の約4分の1となっており、今後有料入館者を増加させることも大きな課題と考えますが、どのような対策を講じていかれるのか、次年度の目標数もあわせてお伺いいたします。

2つ目は、周辺施設との連携についてです。来年には、能楽資料館が開館することになり、広坂一帯はさらににぎわいを増すものと思われまふ。しかしながら、本年3月の総務常任委員会で報告されたように、人気を集めている21世紀美術館が周辺施設の入館者数増に必ずしも結びついていない現状を踏まえ、隣接して建設される能楽資料館との連携をどのように考えておられるのかお聞かせください。

3つ目は交通対策であります。本年8月に開催された「人体の不思議展」の期間中、美術館駐車場に入ることができず、駐車場待ちの自家用車が広坂大通りから兼六園周辺、さらには国道157号線の1車線を占領し、広坂はおろか本市中心部全体で大交通渋滞が発生しました。同様に人気のある展示が開催された際、美術館周辺の渋滞が発生するのは目に見えて明らかです。交通渋滞解消に向けた具体的対応策についてどのように考えておられるのかお伺いいたします。

具体的課題の第2に、21世紀美術館以外の文化施設についてお伺いいたします。

本市の文化施設は、平成12年に金沢湯涌・夢二館、平成13年に金沢蓄音器館、平成14年に前田土佐守家資料館、室生犀星記念館、そして昨年21世紀美術館、本年は徳田秋聲記念館と金沢文芸館、来年の能楽資料館と、ここ5～6年で施設の開館が相次いでいます。

しかし、入館者の推移を見ると、平成14年の「利家とまつ」の放映をピークに、数字の上で各施設の来館者数が軒並み減少しているのが現状です。平成26年に予定される北陸新幹線の開通や金沢ナンバーが導入されるなど、観光都市金沢の復活を予感させる要素はあるものの、現状の利用状況でよいとは言えません。季節や曜日によっては一日の入館者が数名にしかない施設もあるとお聞きますが、この現状についていかがお考えなのかお伺いいたします。

今後、入館者数増に向けて、まずは金沢在住の方に注目することが大切ではないかと考えます。団塊の世代が大量に退職する時代を迎えている折、比較的時間に余裕があり、金沢市の文化施設に集積する伝統工芸品に関心を持つ熟年世代をターゲットにした誘客施策も大きな課題であると考えます。

21世紀美術館で小中学生を対象としたミュージアムクルーズが成功したように、これら文化施設はもとより、県の文化施設も含めた形で、市内在住の高齢者を対象とした無料招待、もしくは一部負担でのイベントを開催し、これまで施設の存在自体を知らなかった市民に関心を持っていただくことができれば、さらなる金沢の文化の伝承、そして市内外からの誘客にも結びつくと思ひますが、御所見をお伺いいたします。また、これ以外にも来館者をふやすための方策を今後どのように講じていかれるのかお伺いいたします。

具体的課題の第3に、施設の運営についてお伺いいたします。

この種の施設は文化施設という性質上、費用対効果は計算しにくいものでありますが、明らかに入館者が減ってきた際、市民の側から公共施設としての存在価値に疑問が出されるのも事実です。本市の一般会計規模も年々縮小している中、今後、社会福祉費は自然増が予測されることから、予算執行のむだを極力省く努力が必要になるのは言を待たないところ です。

この間、指定管理者制度を初め、さまざまな取り組みをなされていますが、文化施設といえども、管理運営費の総額は抑えていかなければならないと考えます。

平成10年に発行された金沢市都市計画マスタープランに記載されている8種類の公共施設に対するアンケートでは、最も求められている公共施設は、高齢者福祉住宅施設、次いで体育館などのスポーツ施設、最後に博物館、美術館となっていました。また、本年2月に行われました新たな基本計画をつくるための市民アンケート調査では、文化への満足度は高く、その結果、今後行政が取り組むべき課題として文化は下位にランクされています。また、市民アンケートにおける今後のまちづくりに関する自由意見の中で、金沢のまちづくりにあっては伝統文化の継承、新しい文化との融合を求める意見が最も多かったにもかかわらず、利用者が減少しているという現状を踏まえ、今後、各施設の来館者数の目標設定を高め置き、各種の取り組みを行うべきだと考えます。

なお、こうした取り組みにもかかわらず、利用率が向上しない場合、施設の統廃合を俎上にのせざるを得ないことも想定されますが、御所見をお伺いいたします。

質問の第2は、指定管理者制度についてであります。

指定管理者制度は、2003年9月の地方自治法の一部改正に伴い、住民サービスの向上及び運営の効率化を図る観点より、平成16年度から取り入れられ、管理を代行する者は公共的団体ばかりではなく、株式会社などの民間事業者等にも広げられることになりました。

本市において、これまでに指定管理者制度が施行された施設は、公募せずに選定された施設が103施設、公募の上選定された施設が33施設で、合計136

施設に上ります。

そこでまず、公募したものと公募しなかった施設の生じた理由をお伺いいたします。加えて、指定管理者制度を採用し、施設の管理料金もしくはサービスが改善されたものと思いますが、同制度を採用して、これまでの管理委託制度から大きく変わった点があればお示してください。

なお、本市の指定管理者制度では、契約期間である5年間は利用者が減少しようとも固定的な管理委託料を払い続けることから、安定した運営を行うことができるため、新規の募集を行うと、多くの民間企業が参入してくるのではないかと考えられます。しかし、利用者が減少している中で、ただ管理をしていけばよいというものではありません。

来年度から同制度を採用し運営される施設が新たに46施設追加となり、その中で体育施設と運動広場が40カ所を占めるとお聞きしていますが、スポーツ施設は市民にとって身近に利用されるものであり、この制度導入を機会に、より運営に工夫を凝らすべきだと考えます。

実際に大阪市では、本年度からプールや体育館など10カ所のスポーツ施設を民間の運営に切りかえた結果、年間運営費が前年度の8億6,000万円から4億9,000万円へと約4割、年間で約3億7,000万円のコスト削減を図ることができ、しかもその一部のプールでは営業時間を延長するなどサービスも向上したとのことであります。その要因は事業者が市から得る委託料と利用者が支払う料金収入の一部で施設を運営することになり、利用者が少ないと維持費が賄えず、赤字になるクリエイティブ方式であるために、事業者は利益を出すためにサービスを向上させ、利用者をふやそうとさまざまな工夫を凝らすためだと聞いております。

したがって本市でもスポーツ施設については大阪市のクリエイティブ方式も参考にしながら、民間活力と運営ノウハウを注ぎ込み、運営コストの縮減とサービスの向上を図るべきだと考えますが、御所見をお伺いいたします。

あわせて今後より多くの市民があらゆる面で利用しやすくするためにも、指定管理者が自由に利用料金を設定できる利用料金制度などを含め、この制度が真に機能を果たすことができるような仕組みを築き上げることが必要であると思いますが、今後の同制度に関する方針についての御所見をお伺いいたします。

質問の第3は、金沢駅周辺整備についてです。

本年3月、金沢市の新しいランドマークとして金沢駅東広場大屋根、愛称もてなしドームが完成し、供用の運びとなりました。今日までの間、金沢市は金沢市民はもとより、多くの県民に利用されるとともに、全国から本市を訪れていただいた方々を温かくおもてなししてきているものと思います。

そこで、このドームが当初の目的を果たしているのかどうか並びに完成前と完成後の通行人の数や流れがどのように変わっているのか、その実態を踏まえ、現在のドームに対する市長の率直な思いをお聞かせください。

さて、このドームにより、広大な地下空間が誕生し、これまでにさまざまなイベントが開かれ、にぎわい創出の一助となっていることと思います。そこで半年間の利用実績とどのようなイベントが人出を集めたのかお伺いいたします。

ところで、この空間の利用については、金沢市駅前広場条例による制限を受けることとなり、最大限の利活用がなされているのかどうか疑問に思います。去る6月10日に駅広場ルネッサンス2005 in 金沢と題したシンポジウムが開かれ、まちづくりと駅広場の役割と題した基調講演があり、その中で「東広場や地下空間もコンコルド広場やサンマルコ広場のようにならなく人が集まるようになればよい」という指摘がありました。これは日本に古くからある広みに当たる機能で、雨や雪が多い金沢だけに、イベント以外にも商店などを誘致したり新しい取り組みを行ったりして、屋根つきの空間を存分に活用し、常に人のにぎわいをもたらすような計画も必要ではないかと考えますが、御所見をお伺いいたします。

ところで、このドームは全国でも類を見ない斬新なデザインで、各方面から注目されていますが、最近、ハトのふんによる被害に悩まされていると耳にします。野鳥との共生は大切ではありますが、歩行者に被害を及ぼすことになれば決して好ましいことではありません。何らかの対策が必要であると考えますが、いかがお考えでしょうか。

いま1つ耳にするのがホームレスの問題です。ドームの形態上、雨や風を防ぐことができることから、ホームレスが集まりやすい条件が整っているとも言えます。人をもてなしという場所柄を考えると、何らかの対策を講ずるべきだと考えますが、実情と対応策についてお伺いいたします。

また、北陸新幹線が遅くとも平成26年に開通する

運びとなりましたが、開通までと開通後の広場の役割をどのように考えておられるのかお伺いするとともに、新幹線開通にあわせ並行在来線の問題が発生することになりますが、本問題について現在どのようなお考えや方向性をお持ちなのか御所見をお伺いいたします。

次に、西口について幾つかお伺いいたします。

まず、東口との機能分担についてであります。西口の機能分担をどのように考えておられるのか、また東西の一体的な整備と活用が必要と考えますが、いかがお考えなのかお伺いいたします。

駅の西口は、平成3年に大規模な整備が行われてからもうすぐ15年を迎えようとしており、時代とともに幾つかの課題も指摘されています。

例えば現在、駅周辺に未利用地が多く見受けられ、こうした土地の活用がまちのにぎわいをつくるためにも急務ではないかと考えます。本年度から金沢駅周辺まちづくり総合整備構想の検討に入られたとお聞きしておりますが、その際、以前からあるテレコムタウン構想を取り込んだものになるのか、あわせて整備構想の目標や計画期間をどのように考えていられるのかお伺いいたします。

また、この機会に西口地下通路を含めたバリアフリー対応や地下通路の夜間における安全確保についても検討すべきだと考えますが、あわせてお伺いいたします。

質問の第4は、片町周辺の夜の環境浄化についてであります。

このまちは仕事帰りの方や金沢のまちを訪れた観光客の方々が多く訪れ、おいしいものを食べ、お酒を酌み交わし、その上、金沢での思い出づくりにも大いに貢献しているものと言えます。激務から開放されたひと時に、山出市長も体と心をいやすためにお酒をたしなまれるのは存じ上げております。

そこで、金沢らしい夜の繁華街である片町は、こうあってほしいという思いをお持ちでしたらお聞かせください。

ところで、ここ数年いわゆるカラス族、黒服の大量出没により、片町の雰囲気が変わってきたと言われております。彼らは黒いスーツを身にまとい、通りかかる人々にだれかれ関係なくキャバクラ等への誘客を目的として声をかけ、断っても断っても次々と声をかけ続けることから、好ましく思わない方や気分を害される方、さらには危険すら感じる方も多くいらっしゃるのではないかと思います。また、同

地区には料理店も多く、家族で食事を楽しむことも多々ありますが、まちの雰囲気が悪くなり、子供にとっては教育の上で悪影響を及ぼすことも懸念されます。市長はこうしたカラス族の客引き行為についてどのように見ておられるのか、御所見をお伺いいたします。

なお、キャバクラ等への客引きの禁止に関して、東京都、岐阜県などでは迷惑防止条例を改正して取り締まりを行っており、大阪府では具体的な検討に入っております。また、市レベルでも、立川市や八王子市など、独自の客引き禁止条例を制定しているところも近年では急速にふえてきております。

最近になって片町地区のビルオーナーや商店街関係者が片町地区未来ビジョン協議会を結成し、懸案事項を協議しておられると聞いておりますが、本市においてもカラス族や呼び込みが余りにも多過ぎる現状を踏まえた上で、本市独自の条例を策定することができないか。もしくは県が策定した迷惑防止条例の改正を要望できないものかお伺いし、私からの質問を終わります。 (拍手)

○議長(南部康昭君) 山出市長。

[市長山出 保君登壇]

○市長(山出 保君) 6番栗森議員にお答えをいたします。

まず、文化施設についてお話がございまして、21世紀美術館のことは襄助役からお答えいたしますし、これにかかわる交通対策のことは都市政策局長からお答えをいたします。私からは、美術館以外の施設についてお答えをしたいと思います。

観光客の伸び悩みもございまして、御指摘のとおり、利用者は減ってきておる傾向も見られることはわかっていまして、心配もしています。文化施設は訪ねた人がみずからを磨いて、そして知的なインパクトを受ける、そういう空間でもございますので、相応の負担はいただくということだろうと思っておりますし、お年寄りには割引制度を実施してございまして、大いに使ってほしいと、こう思っておるわけでもあります。

施設の特色を生かしましたいろんなイベントでありますとかシニア向けのセミナーあるいは体験活動、いろいろ工夫を凝らしまして、新しい誘客にも努めてまいりたいと、このように思っています。

6月に庁内に文化施設運営委員会を設置をしました。利用者の増加につながる活性化方策の検討を始めたところでございます。

私がかねがね思っただけに、金沢は京都や奈良と歴史の重み、長さの差こそあれ、戦災を体験したことのないまちでございますだけに、歴史に責任を持つべきまちだと、こう申し上げてきました。幸いなるかな古い建物が残り、伝統的な環境が残り、なおかついろいろな歴史的・文化的資料が残っている。それをまずは保存することが今の我々の大きい責任だろうと、こういうふうに思っただけに、これを大切に残していくことがよそのまちとの差別化に寄与して、そして近い将来実現するであろう北陸新幹線の乗り入れの時期には必ず役立つはずだと、こう思っただけに、新しい美術館を除きましては、古いものを一生懸命残すと、こういうことに力を注いできたことは事実でありまして、必ず寄与することはあるはずだというふうに信じておるわけでもあります。

それぞれの施設はそれぞれのテーマを持ってつくられてまいりました。同時にそれぞれにこれから新しいテーマをつくって、そして運用していくということが大変大切になってくるわけでありまして、新しいテーマをつくって運用するという、そういう視点からいきますと、知恵が大事だと。知恵を働かさなければいけないし、そうすると、そのための人が大切だと、こういうことにもつながるわけでありまして、昨日も申し上げましたが、人材の大切さというものを思っておる次第でございます。

当然のことながら、施設の効率運営、これにつきましては一層努力をしていかなければなるまいと、こう思っています。

次に、指定管理者制度についてお尋ねがございました。公募する施設と公募しない施設、この理由は何かということでありました。

指定管理者制度の導入に当たりましては、基本方針を定めてございまして、これに基づいて公募するものと公募しないものに区分けをして、そして管理者の選定を行っているところでございます。例えて申し上げますと、地区公民館は地域のコミュニティー施設であります。そこでは地域の方々の自由な運営に任せられているということがございまして、新しい美術館に代表される文化施設につきましては、芸術の創造とか人材の育成を主体にした施設等がございまして、いずれも施設の性格、設置目的に照らしまして、管理者を代行するものを特定することが必要、こう思っただけに、こうした代行するものを特定することが必要な施設については公募せ

ずに選定をする。それ以外の施設については、公募によって選定をすると、こういうふうに基本的に分けて考えておるわけでありませう。具体的な管理についてのテーマにつきましては、所管の局長からお答えを申し上げたいと思います。

私からは駅周辺の整備、利活用のことでもあります。ドームは初期のとおり使われているのかということですが、通勤とか通学者あるいは観光客等が雨にぬれることがありませんで、快適に駅が利用できるようになりました。また、地下の広場では、今までから見ますと多彩なイベントも開かれるというようなことになったと思っております。

玄関口といたしまして、人、物、情報の交流が広がっておるというふうに思いますし、これを起爆にして周辺のまちのにぎわいにもいささか貢献しておるのではなからうかと、このように感じておるところであります。

私はきょうまで日本の駅の状況を見て思っておりますことは、全く顔がないと。まさに画一的な駅をつくってきたという、そういう思いがありまして、金沢の場合はよそのまちと違った駅をつくりたいと、こういう思いから多くの方々の御意見を拝聴して今のありようにいたしましたわけでありませう。日本の駅のありように一石を投ずることができたら望外の幸せであります。具体的なことにつきましては、各担当の方から、局長からお答えをしたいと、このように思っております。

関連をしまして、並行在来線の問題について、私からお答えをします。

経営分離後も並行在来線は住民の通勤・通学の足として確保することが必要でございます。6月に協議会なるものが関係の機関あるいは沿線の自治体から構成をされてございまして、その経営、運行、輸送力の確保等につきまして連携をしていくことになっております。しっかりと真剣にこの場で検討してまいりますと、このように思っております。

次に、西口の機能を一体どう考えているのか。東西の一体的な整備と活用が必要とされるがいかかと。仰せのとおりだと思っております。駅の西側の広場は、新しいこれからの広場として創造の広場にしよう、かねがね皆さんで名づけてきました。それからあわせますと、車のアクセスが利便であるようにということで、自動車交通型広場と、こういう機能を大切にしようと言いつつきょうまでできておることは事実なであります。

しかし、ここにきまして県庁が移転をし、それから新幹線が予定をされるということ、それからタクシーと一般者の交通動線がふくそうして混雑もしてきておるといふことであれば、この解消も必要だといふことでありまして、私は再整備が避けられないというふうに思っており、15年、16年にかけて、駅西広場再整備基本計画というものをつくったわけでありませう。引き続き17年、18年にかけて金沢駅周辺まちづくり総合整備構想、これを策定することにいたしてございまして、これを踏まえてこれからもう一度整備を進めていきたいと、こう思っております。

ただ、私は心配はそれほどしていませんで、といいますのは、あの暫定的に駐車場に使ってあるところは市の地面であります。それだけに準備はある程度できておる、こう申し上げたいと思っております。この整備に際しましては、駅の東広場との歩行動線の連続性、一体感、こういうものが図られるように、仰せのとおり十分配慮してまいりたいと、このように思っております。

次に、駅周辺まちづくり総合整備構想、このことにお触れになりました。この整備構想は、17年、18年にかけて構想を進めてまいりまして、19年からおおむね10年間の事業の計画期間というものを設定をいたしております。新幹線の開業、また駅西広場の再整備、こういうことを踏まえまして、都心軸線沿いの駅周辺地区において、北陸の玄関口にふさわしい交流拠点としての機能集積、にぎわいの創出、これを目指していきたいと思っております。もちろん仰せの中にありましたけれども、高度情報化社会を見据えまして、ITを基盤にまちのにぎわいをつくると、こんなことも大切なことでありましたので、構想にはこうしたことも盛り込んでいきたいと、こう思っております次第でございます。

バリアフリーについての配慮が必要だと、これも仰せのとおりです。駅西広場、地下通路につきましては、エレベーターの設置、あるいは段差解消、こういうことを進めて、地上部では広場から駅西地区への横断歩道の新設、こんなことを再整備の中で行っていく必要があると、こう考えております。

地下通路の安全確保につきましては、現在非常ベルとか照明とか巡回警備、それからモニターカメラによる監視を行っているわけでありませうが、再整備をいたしましたときには、エレベーターの中の監視カメラの設置、こういうことも含めて一層安全対策

を進めてまいりたいと、このように思っています。

次に、夜の繁華街のことにお触れでございました。地元の人たちも、また観光客も多数訪れるのが繁華街でございまして、昼も夜もにぎやかで、安心した場所でなければなりません。それだけに、これからも明るくて、そして健全なまちの中心として、魅力的なところであってほしいと願っておるわけでありませぬ。

カラス族の客引きをどう見ておるかということですが、都市のイメージに合いませんし、悪質な客引きが横行するということになりますと、風俗環境の悪化を招いて、そしてひいては青少年の健全育成にもいい影響を及ぼさないということでもありますので、心配をしています。

そこで、この対応でございませぬが、カラス族の増加を受けまして、県警におかれましては、相次ぐ検挙と、こういうことをなさっておりますし、営業禁止区域における性風俗店の摘発も行っておりますし、迷惑防止条例による取り締まりは強化されているというふうには私は実は踏まえております。同時に県警と市が分担をしまして、片町地区でビデオカメラシステムを設置をいたしました。一方、地元の皆さんは環境浄化のパトロールをやってくださっておりますし、効果は私は、少しずつあらわれていくというふうには思っております。そういうことでもありますので、市独自の条例による規制というのは今のところ考えてはおりませぬ。

なお、迷惑防止条例の改正要望のことにつきましては、今、警察庁で性風俗特殊営業、それから集客行為の規制強化を目的にいたしまして、風俗営業適正化法、これの改正を予定しているというふうにお聞きをいたしております。当面、この動きを見てまいりたいと、このように思っております次第でございませぬ。以上であります。

○議長（南部康昭君） 養助役。

〔助役 養 豊君登壇〕

○助役（養 豊君） 6番栗森議員から21世紀美術館について御質問がございましたので、お答えします。

開館1周年を間近に迎え、入館者数に対しての現在の率直な感想と予想を大幅に上回る入館者を記録した要因という御質問にお答えいたします。

入館者数は、昨日まで147万7,338人。数字が示すように大変多くの方にお越しいただきまして、うれしく思うと同時に、数字に対しては謙虚に受けとめ

ております。この要因は、多彩な展覧会を通しまして、美術館がまちを変えるというミッションを掲げ、それに対しまして職員一同頑張ってきております。これからもそれに向かって邁進いたしていきたいと思っております。

美術館が新しい文化の創造と新たなまちのにぎわい創出の拠点として市民から一定の評価をいただいたものと理解しております。加えまして、まちなかに立地し、斬新で宇宙船を思わせるようなデザインの美術館で世界から注目されたことや、子供と一緒に育つ美術館として行ってまいりましたミュージアムクルーズの実施により、小中学生が家族を連れて再び訪れたこと、さらには、国内外の多くのテレビ、雑誌、新聞等で紹介されたことも大きいと考えております。

次に、2年目のブランクを迎えるに当たって、1年目の入館者をどのように維持するのか、その入館者数の目標数は、また有料入館者数の増加策と次年度の目標数はとの御質問に対してお答えいたします。

引き続き魅力と話題性の高い展覧会を企画するとともに、市民ギャラリーなどの利用促進、地元商店街や地場産業、学校との連携を深めてまいりたいと思っております。

また、来年5月には第2回日本メキシコ文化サミットが日本で、そしてここ21世紀美術館で開催されることになり、メキシコ国家芸術省総裁を初め、両国政府や文化関係者が文化交流の展望などについて意見交換する予定になっております。今後は国際会場の場としての利用も考えております。

有料入館者の増加には、館主催の展覧会の広報が重要でございます。既に現在行われておりますリヒター展では、試験的にデパートのダイレクトメールに優待券を同封したところでございます。今後ともあらゆる機会を通しまして、美術館の情報を提供していきたいと思っております。

2年目の目標入館者数は約100万人、そのうち有料入館者数は、4分の1の約25万人としていきたいと思っております。

次に、好評でございましたミュージアムクルーズは、2年目以降も実施する考えなのかという御質問に対しましてお答えいたします。

来年度のミュージアムクルーズについては、教育効果の高い小学4年生を対象に実施時期を含めて教育委員会と連携し検討してまいりたいと思っております。

また、隣接して建設している能楽資料館との連携

をどのように考えていくのかとの御質問にお答えいたします。

21世紀美術館の通り抜け通路を整備するなど、回遊性に配慮したところでございます。また、由緒あるお茶室、ショウトウアンとサンウテイに加え、新たに能楽資料館が美術館に隣り合うことでより厚みのある文化空間が生まれるものと期待しております。両施設の具体的な連携方策や一体的な運営のあり方について今後検討していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（南部康昭君） 武村都市政策局長。

〔都市政策局長武村昇治君登壇〕

○都市政策局長（武村昇治君） 美術館周辺の交通対応策につきましてお答えをさせていただきます。

21世紀美術館は、まちなかの回遊性を高め、にぎわい創出を図る重要な拠点でございますし、駐車台数にも御承知のとおり限りがございます。日ごろからホームページなどを通じまして、公共交通機関の利用を呼びかけているところでございまして、まずは御協力をお願いいたしたいと考えておるところでございます。

人気のある展覧会や連休期間中など来館者の混雑が予想される場合は、市はもとより主催者側にも交通誘導員の配置をお願いいたしまして、美術館周辺のスムーズな車の流れを確保するように努めておりますし、また近隣の観光会館駐車場への誘導でございましたり、民間駐車場への案内も行っておるところでございます。引き続き交通渋滞の解消に向けましてきめ細かく努力をまいります。

あわせて、金沢駅周辺の整備のドームの半年間の利用実績についてのお尋ねにお答えをさせていただきます。

もてなしドームの地下広場では、オープンから8月まで35団体、延べ60日間の利用がございました。週末を中心に多彩な催しが開催されたところでございまして、人手が多かったイベントといたしましては、8月に開催をされましたミュージックパフォーマンスなどを中心といたしますもてなしドーム夏祭りや学生によります国際交流イベントで2日間、3,000人、障害のある子のふれあい交流作品展と人工衛星なども紹介をしました宇宙から見た地球展に5日間で4,500人の来場者がございました。

イベント以外に常ににぎわいをもたらす計画が必要ではないかのお尋ねでございました。もてなしドームの鼓門は、待ち合わせの場所として市民に利

用され、親しまれておりますし、地下広場は市民ボランティアの方々が来外者へ湯茶をふるまうなど、もてなしの場ともなっております。

駅の役割は、人が通過するという場所から行き交う場所へ変わっておりますので、駅のにぎわい交流機能をさらに高めるようにサインの充実でございましたり情報発信機能の強化、さらにはパブリックアートの設置なども視野に入れまして、駅東広場の空間利活用策を検討してまいりたいと考えております。

北陸新幹線の開通後の広場の役割についてお問い合わせございました。

駅東広場は北陸新幹線の開通も見据えまして、飛躍的に伸びる乗降客を温かくもてなしますとともに、市民が集い、にぎわう拠点といたしまして、金沢の顔となるよう整備したものでございます。どうぞよろしくお願いたします。

○議長（南部康昭君） 福田総務局長。

〔総務局長福田雅幸君登壇〕

○総務局長（福田雅幸君） 指定管理者制度について何点かのお尋ねがございました。

まず、指定管理者制度を採用して、これまでの管理委託制度から大きく変わった点は何かとのことでありますが、本年度は駐車場や駅西広場、生きがい情報作業センターなど33施設で指定管理者を公募の上選定をいたしまして管理を開始しておりますが、当初予算ベースで比較をしますと、約4,500万円の経費の削減効果がございました。また、開始後5カ月経過の段階ではありますが、実施されたアンケートの結果などを見ましても、利用者からおおむね好評を得ており、スムーズな移行が図られているものと思っております。

次に、スポーツ施設について民間ノウハウによるコスト削減とサービス向上を図るべきと思うがどうか、また利用料金制度の導入など、指定管理者制度が真に機能する仕組みづくりが必要と思うが、今後の方針はどの御質問にお答えをいたします。

スポーツ施設は市民に身近な施設であることから、指定管理者制度導入に当たっては平等な利用を図ること、そしてまたサービスの向上や利活用の促進を図ることが大切であると考えております。あわせて、経費の削減と民間の公共分野での事業機会の拡大につながればとの思いでございます。

今後は指定管理者が収益性を高め、自由な発想で創意工夫を凝らし、施設運営が行えるよう、利用料金制度のできるだけ早い時期の導入につきましても

検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（南部康昭君）坂戸土木部長。

〔都市整備局土木部長坂戸正治君登壇〕

○都市整備局土木部長（坂戸正治君）ドームに進入するハトのふんによる被害についてお尋ねであります。

ドームは建設当初より野鳥の進入が想定されたことから、進入防止のためのワイヤーを張りめぐらす対策を講じてきたところであります。現在、数羽のハトの被害が見受けられております。歩行者への被害も懸念されますことから、鳥類の専門家と相談しながら対応策について研究してまいりたいと考えております。

次に、ホームレスの対応策と実情についてお答えいたします。

駅東広場の警備については、中央監視室における24時間体制でのモニター監視及び警備員による巡回を実施しております。現在、広場周辺には数名のホームレスが見受けられますが、利用者等に対して迷惑行為があった場合には、警察と連携を図りながら適切に対応しているところでございます。

以上でございます。